

- For more records, click the Records link at page end.
- To change the format of selected records, select format and click Display Select d.
- To print/save clean copies of selected records from browser click Print/Save Selected.
- To have records sent as hardcopy or via email, click Send Results.

✓ Select All	Print/Save Selected	Send Results	Display Selected	Format Free
✗ Clear Selections				

1. ☐ 2/5/1 DIALOG(R)File 352:Derwent WPI (c) 2003 Thomson Derwent. All rts. reserv.

002220837

WPI Acc No: 1979-20012B/197911

Hair dyeing compsn. contg. specified cationic polymer -  
fatty acid, alkali, benzyl alcohol and oxidn. dye

Patent Assignee: L'OREAL SA (OREAL)

Number of Countries: 013 Number of Patents: 018

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
BE 870248	A	19790306				197911 B
GB 2003938	A	19790321				197912
NL 7809040	A	19790309				197912
DE 2838878	A	19790322				197913
DK 7803895	A	19790402				197917
BR 7805846	A	19790502				197920
JP 54049340	A	19790418				197922
FR 2402446	A	19790511				197924
FR 2428438	A	19800215				198013
GB 2003938	B	19820303				198209
CA 1119518	A	19820309				198214
AT 7806431	A	19820715				198231
US 4357141	A	19821102				198246
CH 634222	A	19830131				198307
DE 2838878	C	19841011				198442
JP 87007890	B	19870219				198711
IT 1109106	B	19851216				198717
NL 182198	B	19870901				198738

Priority Applications (No Type Date): FR 7817900 A 19780615; FR 7727096 A 19770907

Abstract (Basic): BE 870248 A

The compsn. to dilute with an oxidising soln. contains  $\geq 1$  oxidn. colourant and a support comprising 1 fatty acid,  $\geq 1$  alkalising agent in stoichiometric excess to the acid, 2-20% benzylalcohol and 1-15% of  $\geq 1$  cationic polymer constituted by moieties of formula: -X-N circled positive (R1) (R3)-A-N circled positive -(R2) (R4)-B-X-.

In the formula R1 and R2 are 1-3C alkyl; R3 and R4 are 1-3C alkyl or hydroxyalkyl, also R2 and R4 can be 4-8C alkyl when R1=R3=CH3 and in this case R=R4; also R4 can be benzyl, cyclohexyl or 4-12C alkyl when R1=R2=R3=CH3; A and B independently are 2-20C alkylene or alkenylene, -(CH2)n-O-(CH2)n-, -(CH2)m-NHCONH(CH2)m-, -CH2-CH-(OH)-CH2- or -CH2-phenyl-CH2- in which n and m are 2 or 3; and X is an anion.

The compsns. are less injurious to the hair than known prods. They give an excellent untangling effect and give the dry hair a pleasant moist feel. After colouration the hair is full, vibrant, shiny and non-electric, with excellent dyeing.

Title Terms: HAIR; DYE; COMPOSITION; CONTAIN; SPECIFIED; CATION; POLYMER; FATTY; ACID; ALKALI; BENZYL; ALCOHOL; OXIDATION; DYE

Derwent Class: A96; D21; E19

International Patent Class (Additional): A61K-007/13; C08G-073/02;

D06P-001/52; D06P-003/04

File Segment: GPI

---

<input checked="" type="checkbox"/> Select All			Display Selected	Format
<input checked="" type="checkbox"/> Clear Selections	Print/Save Selected	Send Results		Free 

---

© 2003 The Dialog Corporation

(B)20300850075



⑨日本国特許庁(JP)

⑩特許出願公開

⑪公開特許公報(A)

昭54-49340

⑫Int. Cl.<sup>2</sup>  
A 61 K 7/13

識別記号 ⑬日本分類  
31 C 4

庁内整理番号 ⑭公開 昭和54年(1979)4月18日  
7432-4C

発明の数 1  
審査請求 未請求

(全 21 頁)

⑮毛染用組成物

⑯特 願 昭53-108687

⑰出 願 昭53(1978)9月6日

優先権主張 ⑱1977年9月7日⑲フランス  
(FR)⑳77 27096

⑳1978年6月15日㉑フランス  
(FR)㉒78 17900

㉓発 明 者 ジャン・フランソワ・グロリエ  
フランス国パリ市リュ・ダンツ  
イク19

同 クリスチアン・モナイ

㉔発 明 者 リオネル・ベリ

フランス国ブーローヌ・シユル  
・セヌ・ブールパール・ジャ  
ン・メルモ14  
バプチスト・クレマン127

㉕出 願 人 ロリアル

フランス国パリ市8リュ・ロイ  
アル14

㉖代 理 人 弁理士 朝内忠夫 外3名

明 細 書

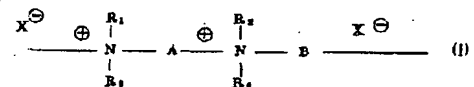
1. 発明の名称

毛染用組成物

2. 特許請求の範囲

1. 酸化剤の少なくとも1種と担体とを含み  
しかも酸化剤溶液で希釈する毛染用組成物におい  
て、該担体は腐蝕の少なくとも1種と腐蝕の  
中和に必要な化学量に比べて過剰のアルカリ  
化剤の少なくとも1種と、ベンジルアルコールの  
2-3の重量多と、

次式(I)



(ただしR<sub>1</sub>とR<sub>2</sub>とは炭素原子数1-3のアル  
キル基を表わし、R<sub>2</sub>とR<sub>3</sub>とは炭素原子数1-  
3のアルキル基又はヒドロキシアルキル基を表わ  
し、R<sub>1</sub>=R<sub>2</sub>=CH<sub>3</sub>のときR<sub>1</sub>がR<sub>2</sub>と同じ  
である場合にはR<sub>1</sub>とR<sub>3</sub>とは炭素原子数4-8  
のアルキル基であつてもよく、R<sub>1</sub>=R<sub>2</sub>=R<sub>3</sub>=CH<sub>3</sub>

のときはR<sub>3</sub>はベンジル基、シクロヘキシル基又  
は炭素原子数4-10のアルキル基であつてもよ  
く、A及びBは同じでも相異なるてもよく、連鎖  
中に2-20個の炭素原子を有する直鎖又は分枝  
鎖アルキレン基又はアルケニレン基、-(OH)<sub>n</sub>-O  
-(CH<sub>2</sub>)<sub>n</sub>-、-(OH)<sub>m</sub>-NH-OO-NH-(CH<sub>2</sub>)<sub>m</sub>-、  
-OH<sub>2</sub>-OH(OH)-CH<sub>2</sub>-又は-OH<sub>2</sub>-O<sub>2</sub>H<sub>2</sub>-OH<sub>2</sub>-の  
基(但しn及びmは2又は3の整数である)を表  
わしX<sup>⊖</sup>はアニオンを表わす)の反復単位からな  
るカチオン系重合体の少なくとも1種の1-1.5  
重量多とを組合せて含有することを特徴とする毛  
染用組成物。

2. 前記の第四級化した重合体は、R<sub>1</sub>、R<sub>2</sub>、  
R<sub>3</sub>及びR<sub>4</sub>がメチル基、エチル基又はプロピル基  
であり又はR<sub>2</sub>及びR<sub>3</sub>が2-ヒドロキシエチル基、  
2-ヒドロキシプロピル基又は3-ヒドロキシプロ  
ピル基を表わし、又はR<sub>2</sub>及び/又はR<sub>3</sub>がブチ  
ル基を表わし、A及びBが同じでも異なるもので  
もよく、次式:

$-(CH_2)_y-OH(E)-(CH_2)_x-OH(K)-(CH_2)_i-$   
(ただし、 $x$ 、 $y$ 及び $i$ は整数であつて、 $0$ でない、 $i$ で変動でき $(y+x+i)$ の合計は $0$ と等しい、それより大きくまた $i$ より小さく、 $E$ 及び $K$ は水素原子又は炭素原子数 $i$ 未満の脂肪族基を被わす)のアルキレン基を被わし $X$ が $Br$ 又は $Cl$ を表わすものである特許請求の範囲第 $i$ 項記載の組成物。

3.  $A$ 及び $B$ 又は $B$ がアルケニレン基を被わす場合次式、 $-(CH_2)_{n1}-OH=CH-(CH_2)_{n2}-$  (ただし $n1$ 及び $n2$ は整数であつて $0$ でない、 $i$ で変動できその合計は $i$ 以下である)のアルキレン基である特許請求の範囲第 $i$ 項記載の組成物。

4. 脂肪酸が炭素原子数 $i$  (ユ-20とく $K$ /ユ-15)の天然源又は合成源例えばラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、イノステアリン酸、オレイン酸、アラキニン酸、リシノール酸、フェニルステアリン酸、リノール酸又はそれらの混合物である特許請求の範囲第 $i$ 項又は

10. 酸化染料の少なくとも1種を $0.001$ 〜 $10$ 重量%好ましくは $0.05$ 〜 $5$ 重量%含んでいる特許請求の範囲第 $i$ 項ないし第 $j$ 項の何れかに記載の組成物。

11.  $pH$ が $5$ 〜 $11$ 好ましくは $5$ 〜 $10.5$ である特許請求の範囲第 $i$ 項ないし第 $j$ 項の何れかに記載の組成物。

12. 液状で存在し、脂肪酸又は脂肪酸の混合物が膏状脂肪酸又は脂肪酸の液状混合物である特許請求の範囲第 $i$ 項ないし第 $j$ 項の何れかに記載の組成物。

13. 脂肪酸がオレイン酸、イノステアリン酸及びそれらの混合物から選ばれる特許請求の範囲第 $i$ 〜 $j$ 項記載の組成物。

14. アルカリ化剤がアンモニアとモノ-又はジ-エタノールアミンとの混合物であり、別記のモノ-又はジ-エタノールアミンは脂肪酸に対して化学量論量でありアンモニアは $7$ 〜 $15$ 重量%の割合で存在している特許請求の範囲第 $i$ 〜 $j$ 項又は第 $k$ 〜 $l$ 項記載の組成物。

特許第54-49340 (2)

第 $j$ 項記載の組成物。

5. アルカリ化剤が水酸化ナトリウム、水酸化カリウム、アンモニア、モノエタノールアミン、ジエタノールアミン、トリエタノールアミン又はそれらの混合物からなる群から選ばれる特許請求の範囲第 $i$ 項ないし第 $j$ 項の何れかに記載の組成物。

6. 脂肪酸を $5$ ないし $10$ 重量%好ましくは $10$ ないし $20$ 重量%含有する特許請求の範囲第 $i$ 項ないし第 $j$ 項の何れかに記載の組成物。

7. 脂肪酸の中和に相当する化学量論量に対して過剰なアルカリ化剤は組成物の全重量の $1$ 〜 $30$ %を成す特許請求の範囲第 $i$ 項ないし第 $j$ 項の何れかに記載の組成物。

8. カチオン系重合体を $1$ 〜 $10$ 重量%含んでいる特許請求の範囲第 $i$ 項ないし第 $j$ 項の何れかに記載の組成物。

9. ベンジルアルコールを $5$ 〜 $15$ %含んでいる特許請求の範囲第 $i$ 項ないし第 $j$ 項の何れかに記載の組成物。

13. ベンジルアルコールが $5$ 〜 $15$ 重量%の濃度で存在しており、 $2$ 〜 $20$ %好ましくは $5$ 〜 $15$ %の濃度の溶媒と組合せてある特許請求の範囲第 $i$ 〜 $j$ 項ないし第 $k$ 〜 $l$ 項の何れかに記載の組成物。

16. 前記の溶媒はエタノール、プロパノール、イソプロパノールの如き低級脂肪酸アルコール、プロピレングリコール、メチルグリコール、エチルグリコール、ブチルグリコール、ジエチレングリコール、ジプロピレングリコール、ヘキシレングリコール、ジエチレングリコールモノエタノールエーテルの如きグリコールからなる群から選ばれる特許請求の範囲第 $i$ 〜 $j$ 項記載の組成物。

17. 溶媒、脂肪酸アミド、脂肪酸アルコール、オキシエチレン化又はポリグリセロール化した脂肪酸アルコール、オキシエチレン化したアルキルフェノール、アルカリ金属アルキル硫酸塩、オキシエチレン化したアルキル硫酸塩、防臭剤、金属イオン封鎖剤、又は香料の如き慣用の添加剤も含んでいる特許請求の範囲第 $i$ 項ないし第 $j$ 〜 $l$ 項の何れかに記載の組成物。

### 3.発明の詳細な説明

本発明は新規な毛染組成物及びその適用に関する。

現在の毛染技術においては、数週間の間髪を日光及び外気に曝されるのに耐える着色を得るためにいわゆる酸化染料を用いることは公知である。

酸化染料はジアミン、アミノフェノール又はフェノールの型の芳香族化合物である。これらの化合物はそれら自体一般に染料ではないが一般には過酸化水素からなる酸化媒質の存在下で縮合により酸化されて染料となる。これら酸化染料のうち一方ではジアミン、アミノフェノールから選ばれたパラ又はメルト誘導体である塩基と他方ではメタジアミン、メタアミノフェノール、ポリアミノフェノールから選ばれたいわゆるメタ誘導体である酸性剤又は発色剤(カップラー)と呼ばれる化合物との区別がある。

染色は過酸化水素の存在下で塩基性の、一般にはアンモニウム性の媒体中において進行し、これで同時に毛髪を脱色し毛髪を所望の色に染色すること

が可能である(ノーマルの)過酸化水素と混合するとクリーム状の染色剤はクリームを生じ、ゲル化性の液状染色剤はゲルを生じる。

これらの剤は、毛髪が湿っているときの梳きをよくし且つ毛髪が乾いてから若干のしなやかさと光沢をもたらしカチオンを添加して改良することができる。

クリーム状の毛染組成物は髪の色沢の強さを犠牲にしても白髪を被覆して良くするのに最も多く用いられ、一方ゲル化性の剤は極めて明るくするのをもたすが、白髪の被覆被覆はクリームで得られるものより劣っている。

本発明者は脂肪族の少なくともノ種と、特殊な型式のカチオン系重合体の少なくともノ種と、ベンジルアルコールとアルカリ化剤の少なくともノ種とを染料・濃縮剤、脂肪族・金属イオン封鎖剤、酸化防止剤の如き従来の染色剤添加剤と混合して組合せて、酸化剤剤液で希釈する酸化毛染組成物を作りとくに興味ある結果が得られることを見出した。

特開昭54-49340(3)

とができる。酸化染色作業は実際に脱色(又は染色)の効果及びいわゆる染色効果を同時に含む複雑な作業である。

染色組成物は染色剤とも呼ばれクリーム、の形又は糊状によりゲル化できる液状の形をしている。

一般にクリームは、 $O_{12}-O_{18}$  の脂肪族の石ケンから得られるか或いはアニオン系又は非イオン系乳化剤の存在下で脂肪族アルコールから得られる。

一般に、ゲル化可能な剤はオキシエチレン化又はポリグリセロール化非イオン系化合物と脂肪族とから得られるか或いはオレフィン糖又はイソステアリン酸の如き液状脂肪族の石ケンと脂肪族とから得られる。

石ケンを作るのに用いるアルカリ化剤はとくに水酸化ナトリウム、水酸化カリウム、アンモニウム、モノエタノールアミン、ジエタノールアミン又はトリエタノールアミンであることができる。

最終的に着色を得るのに十分な量の過酸化水素とアンモニウムとを得るために最も多く用いられる

本発明の毛染組成物は従来用いられている製品より毛髪を損なわないという特徴がある。

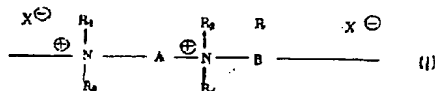
そのほか髪が湿っているときも乾いているときも毛梳きがよく手触りがよくなる。

本発明の毛染組成物で染色した後髪が乾くと髪がありふつくらとしており光沢がよく静電気がたまらない。

そのうえ本発明の染色剤を用いて得られる染色は光沢と白髪の被覆とを合せ持ちまた得られた色調に極めて良好な一致をもたらし一方日光及び洗濯に対する耐久性がすぐれている点でとくに注目される。

本発明はとくに、酸化染料の少なくともノ種と染料とを含みしかも酸化剤剤液で希釈する毛染組成物であつて該剤は脂肪族の少なくともノ種と脂肪族の中和に必要な化学量論比に釣り合ったアルカリ化剤の少なくともノ種とベンジルアルコールの2-20重量%と

次式(1)：



(ただし  $R_1$  と  $R_2$  は炭素原子数 1-3 のアルキル基を被わし  $R_3$  と  $R_4$  は炭素原子数 1-3 のアルキル基又はヒドロキシアルキル基を被わし、 $R_1 = R_2 = CH_3$  のとき  $R_2$  が  $R_1$  と同じである。場合に  $R_3$  と  $R_4$  は炭素原子数 4-7 のアルキル基であつてもよく  $R_1 = R_2 = R_3 = R_4 = CH_3$  のときは  $R_5$  はベンジル基、シクロヘキシル基又は炭素原子数 6-12 のアルキル基であつてもよく  $A$  及び  $B$  は同じでも相異なつてもよく、連鎖中に 2-20 個の炭素原子を有する直鎖又は分枝鎖アルケレン基又はアルケニレン基、 $-(CH_2)_n-O-(CH_2)_m-$ 、 $-(CH_2)_m-NH-OO-NH-(CH_2)_m-$ 、 $-CH_2-CH(OH)-CH_2-$  又は  $-CH_2-CH_2-CH_2-$  のみ (但し  $m$  及び  $n$  は 2 又は 3 の整数である) を被わし  $X^{\ominus}$  はアニオンを被わす) の反復単位からなるカチオン系重合体の少なくとも 1 種のモノ量重平均とを配合せ

割合は組成物全重量 (希釈前) の 1-30% を成す。

本発明の組成物で用いられる前記式 (I) の両端基化重合体はとくに  $R_1$ 、 $R_2$ 、 $R_3$  及び  $R_4$  が同じもので炭素原子数 1-3 のアルキル基を被わし又は  $R_1 = R_2 = R_3 = R_4$  であつて  $R_1$  と  $R_2$  が炭素原子数 1-3 のアルキル基を被わし  $R_3$  と  $R_4$  が炭素原子数 1-3 のヒドロキシアルキル基を被わし、更にはまた  $R_1$ 、 $R_2$ 、 $R_3$  及び  $R_4$  がメチル基、エチル基又はプロピル基を被わし又は  $R_3$  及び  $R_4$  が 2-ヒドロキシエチル基、2-ヒドロキシプロピル基又は 3-ヒドロキシプロピル基を被わし、又は  $R_3$  及び  $R_4$  はブチル基を被わし、 $A$  と  $B$  とが同じでも異なるてもよくアルケレン基を被わすときはそれが好ましくは次式:

$-(CH_2)_y-CH(OH)-(CH_2)_x-CH(OH)-(CH_2)_z-$   
(ただし  $x$ 、 $y$  及び  $z$  は整数であつて 0 でないし、 $0$  で変動でき ( $y+x+z$ ) の合計は 0 に等しいか 0 より大きくまた 1 より小さく、 $y$  及び  $x$  は水素原子を被わすか又は炭素原子数 1 未満の脂肪

特開 54-49340 (4)

で含有することを特徴とする毛染用組成物に関する。

前記の脂肪族は炭素原子数 2-20 とくに 12-18 の天然又は合成脂肪族酸とえばラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、イソステアリン酸、オレイン酸、アラキシン酸、リノール酸、フェニルステアリン酸、リノール酸又はそれらの混合物である。

アルカリ化剤 (アルカリ試薬) はとくに水酸化ナトリウム、水酸化カリウム、アンモニア、モノエタノールアミン、ジエタノールアミン、トリエタノールアミン又はそれらの混合物である。

染色剤中に少なくとも 1 種の脂肪族と少なくとも 1 種のアルカリ化剤とが存在するのでその場で脂肪族の石ケンを生産できる。

本発明の染色剤中では脂肪族の濃度 (希釈前) は 3-30 重量% 好ましくは 10-25 重量% である。

前記のアルカリ化剤は脂肪族の中に相当する化学量論量に比べて過剰に存在している。この過

量基を被わす) の基であり、 $A$  及び  $B$  がアルケニレン基を被わすときはそれが好ましくは次式  $-(CH_2)_{n_1}-CH=CH-(CH_2)_{n_2}$  (ただし  $n_1$  及び  $n_2$  は整数であつて 0 から 15 で変動できそれらの合計は 15 以下である) の基であり、 $X^{\ominus}$  がアニオン例えばハロゲンイオンとくに塩素イオン臭素イオン又はヨウ素イオンを被わすものである。

本発明は特定の分子量の重合体の使用に限定されるものではない。一般に分子量が 1500 から 50000 で変動する前記式 (I) の重合体を用いられる。

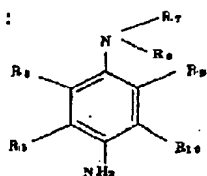
本発明の毛染用組成物に使用できる第 4 酸化重合体は公知であり、たとえは仏国特許出願第 75, 15162 号明細書記載の方法と同様の方法によつて調製できる。

使用する重合体の (酸化剤と希釈する基の) 濃度は 1-10 重量% 好ましくは 1.5-10 重量% である。

本発明の組成物に使用できる酸化染料として一方にはジアミン又はロアミノフェノールである。塩

基（パラ又はオルト誘導体）染料であり他方ではジアミン、アミノフェノール又はジフェノールである発色剤（いわゆるメタ誘導体）である通常の染料をあげることができ、

本発明による組成物に使用できるパラフェニレンジアミンとしては第一、第二及び第三パラフェニレンジアミン、場合によつてはベンゼン核に置換基のあるものを挙げることができ、好ましくは次の一般式：



（ただし R7 及び R8 は同じものか又は相異なるもので、水素原子、直鎖の又は側鎖がある低級アルキル基、モノ又はポリヒドロキシアルキル基、ビベリジノアルキル基、カルバミルアルキル基、ジアルキル・カルバミルアルキル基、アミノアル

キル基、モノアルキルアミノアルキル基、ジアルキル・アミノアルキル基、 $\alpha$ -アミノスルホニルアルキル基、カルボキシアルキル基、アルキルスルホンアミドアルキル基、アリールスルホンアミドアルキル基、メルホリノアルキル基、アシルアミノアルキル基、スルホアルキル基又はアルコキシアルキル基を要わして前記のアルキル基が好ましくは炭素原子数1-4であるものであり、又は R7 及び R8 は一緒になつてメルホリノ又はビベリジンの如き五員又は六員の複環式基を形成してもよく；R9、R10、R11 及び R12 はそれぞれ相互独立して水素又はハロゲン原子、好ましくは炭素原子数1-4の低級アルキル基、基-OZ基（但し Z がヒドロキシアルキル基、アルコキシアルキル基、アシルアミノアルキル基、カルバミルコキシアミノアルキル基、メシルアミノアルキル基、クレイドアルキル基、アミノアルキル基、モノ又はジアルキルアミノアルキル基である）を要わす）によつて要わされるパラフェニレンジアミンをあげることができ、

上記の定義においてハロゲンは弗素・臭素又は好ましくは塩素を意味し得る。

本発明による組成物中でとくに有効な化合物としては、次のものを挙げる事ができる：パラフェニレンジアミン、パラトルイレ：ジアミン、メトキシパラフェニレンジアミン、クロロパラフェニレンジアミン、3,4-ジメチル・パラフェニレンジアミン、2,5-ジメチル・パラフェニレンジアミン、3-メチル-3-メトキシ・パラフェニレンジアミン、2,6-ジメチル-3-メトキシ・パラフェニレンジアミン、N,N-ジメチル・パラフェニレンジアミン、3-メチル-4-アミノ-N,N-(ジエチル)-アニリン、モノ-及びジ(p-ヒドロキシ・エチル)パラフェニレンジアミン、3-メチル-4-アミノ-N,N-ジ(p-ヒドロキシエチル)-アニリン、3-クロロ-4-アミノ-N,N-ジ(p-ヒドロキシエチル)アニリン、4-アミノ-N,N-(エチル・カルバミルメチル)アニリン、3-メチル-4-アミノ-N,N-(エチル・カルバミルメ

チル)アニリン、4-アミノ-N,N-(エチル・メルホリノエチル)アニリン、3-メチル-4-アミノ-N,N-(エチル・メルホリノエチル)アニリン、4-アミノ-N,N-(エチル・アセチルアミノエチル)アニリン、3-メチル-4-アミノ-N,N-(エチル・アセチルアミノエチル)アニリン、4-アミノ-N,N-(エチル・メシルアミノエチル)アニリン、3-メチル-4-アミノ-N,N-(エチル・メシルアミノエチル)アニリン、4-アミノ-N,N-(エチル・ $\beta$ -スルホエチル)アニリン、3-メチル-4-アミノ-N,N-(エチル・ $\beta$ -スルホエチル)アニリン、N-[(4'-アミノ)-フェニル]メルホリノ、N-[(4'-アミノ)-フェニル]ビベリジン、4-アミノ-N,N-(エチル・ビベリジノ・エチル)アニリン、3-メチル-4-アミノ-N,N-メチル・アニリン、2-クロロ-4-アミノ-N,N-(エチル・スルホンアミドメチル)アニリン、2-クロロ-4-アミノ-N,N-

(エチル)-アニリン、2-メチル-4-アミノ-N-(β-ヒドロキシエチル)アニリン、1,2,5-ジアミノ-7-フェノキシエタノール、4-β-メトキシエチルアミノ-アニリン、

これらのパラフェニレンジアミンは蒸留塩基の形で又は塩とて例えばモノ-、ジ-又はトリ-塩酸塩、又は臭化水素酸塩、硫酸塩又は酒石酸塩の形で染色組成物に導入できる。

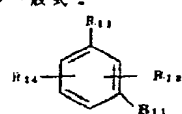
その他の酸化・塩基染料のうちではパラアミノフェノール、2-メチル-4-アミノフェノール、3-メチル-4-アミノフェノール、2-クロロ-4-アミノフェノール、3-クロロ-4-アミノフェノール、2,6-ジメチル-4-アミノフェノール、3,5-ジメチル-4-アミノフェノール、2,3-ジメチル-4-アミノフェノール、2,5-ジメチル-4-アミノフェノール、3,5-ジアミノ-ピリジン、2-ジメチルアミノ-5-アミノ-ピリジン、2-ジエチルアミノ-5-アミノ-ピリジン、2-メチル-6-アミノ-ベンゾモルホリン、3-ア

ミルアルキル基を挟むこともでき、R<sub>11</sub>及びR<sub>12</sub>は水素原子、直鎖又は分枝鎖アルキル基、ハロゲン原子、アミノ基、アルキルアミノ基、アシルアミノ基、クレイド基、O<sub>2</sub>(ただしRはヒドロキシルアルキル基、アルコキシアルキル基、メシルアミノアルキル基、アシルアミノアルキル基、クレイドアルキル基又はカルバムコキシアルキル基である)を挟む)に相当する。

上記一般式に相当する発色剤のうちとくに、レゾルシン、メタアミノフェノール、2,4-ジアミノフェノール、2-メチル-5-クレイドフェノール、2,6-ジメチル-アミノフェノール、2-メチル-5-アセチルアミノフェノール、2,6-ジメチル-5-アセチルアミノフェノール、3-アミノ-4-メトキシフェノール、2-メチル-5-N-β-ヒドロキシエチルアミノフェノール、メタフェニレンジアミン、メタトルイレンジアミン、N-メチル-メタ-アミノフェノール、6-メチル、3-アミノフェノール、(2,4-ジアミノ)フェノキシエタノール

特開54-49240(6)  
ミノ-インドール、N-メチルパラアミノフェノール、オルト-アミノフェノール、パラアミノジフェニルアミン、オルト-フェニレンジアミン及びそれらの置換誘導体をあげることかできる。

本発明の目的である染色組成物は、ノ染又は数種の酸化塩基染料のほかに発色剤(coupler)を含むことができる。本発明の組成物に使用できる発色剤は次の一般式:

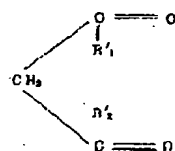




(ただしR<sub>11</sub>及びR<sub>12</sub>は同じでも異なってもよく、ヒドロキシ基、-NHR(ただしRは水素原子、アシル基、クレイド基、カルバムコキシ基、カルバミルアルキル基、アルキル基、シアリル-カルバミルアルキル基、ヒドロキシアルキル基又はメシルアミノアルキル基であることができる)を挟む)を挟む; R<sub>11</sub>及びR<sub>12</sub>はまたそれらの少なくとも一方がOHを挟むすなわち水素原子又はアルコキシ基又

又はこれらの化合物の塩が注目される。

本発明の組成物に使用できるその他の発色剤はたとえば複素環式化合物とくにフルフナフトール、6-ヒドロキシベンズモルホリン、6-アミノベンズモルホリンの如き複素環式化合物、2,6-ジアミノピリジンの如きピリジン誘導体、ピラゾン又はジケトン化合物及びそれらの塩である。

本発明の組成物に発色剤としてとくに使用できるジケトン化合物は次式:

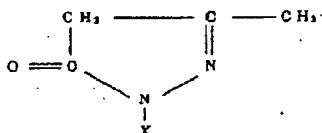


(ただしR'<sub>1</sub>とR'<sub>2</sub>とはそれぞれ相互独立してアルキル基(好ましくは炭素原子数1-4の低級アルキル基)、アルコキシ基、フェニル基、-NH--COOH又は-NH--COOHを



置わす)に相当する。

本発明の組成物に染色剤として使用できるピラゾロンのうち好ましくは次式:



(ただしXは非置換フェニル基又は $-\text{SO}_3\text{H}$ 及び/又はハロゲン(弗素・臭素又は好ましくは塩素)で置換されたフェニル基を置わす)に相当するものが用いられる。

これらの酸化染料にはアゾ染料・アントラキノ染料の如き直接染料、(3-ニトロ-4-メチルアミノ)-フェノキシエタノール、1-N-メチルアミノ-2-ニトロ-4-N,N-ジ-β-ヒドロキシエチル-アミノ-ベンゼン、1-β-ヒドロキシ-エチルアミノ-2-メトキシ-4-ニトロ-ベンゼン、3-ニトロ-4-β-ヒドロ

-1/3重量多を占める。これは石ケンを生じるのに必要な量に対して規定される。

本発明の毛染組成物は必須成分に加えて通常の各種添加物を含むことができる。これらの添加物は溶媒、脂肪族アミド、天然又は合成の脂肪族アルコール、オキシエチレン化又はポリグリセロール化した天然又は合成の脂肪族アルコール、オキシエチレン化したアルキルフェノール、オキシエチレン化した又はしていないアルカリ金属アルキル硫酸塩、界面活性剤、金属イオン錯体剤、酸化防止剤又は香料であることができる。

本発明の組成物とくに溶媒の20%と、脂肪族アミドの10%と、脂肪族アルコール、オキシエチレン化又はポリグリセロール化した脂肪族アルコール又はオキシエチレン化したアルキルフェノール0-20%とオキシエチレン化した又はしていないアルキル硫酸塩の1-10%とを含むことができる。これらの量は重量比で示してある。

ベンジルアルコールと混合して使用できる溶媒

特開2004-49340 (7)

キシエチル-アミノ-フェノール、1-メトキシ-3-ニトロ-4-β-ヒドロキシエチルアミノ-ベンゼン、3-(1-ニトロ-4-アミノ)-フェノキシエタノールの如きベンゼン系ニトロ化誘導体、インドキノン、インドアニリン、インドフェノール、又はこれら3種の化合物のロイコ誘導体の如き他の酸化染料、ポリフェノール、アミノジフェノール、ポリアミノフェノール例えばヒドロキノン、1,2-ジヒドロキシ-ベンゼン、1,5-ジヒドロキシ-ナフタレン、1,3,4-又は1,3,5-トリヒドロキシ-ベンゼン、2,4-ジアミノ-4-ジメチルアミノ-フェノールを添加できる。

ベンジルアルコールは本発明により2-10重量多好ましくは3-7重量多の濃度(稀釈用)で使用する。

本発明の毛染組成物は好ましくは主としてアンモニアからなる過剰のアルカリ化剤を含んでいる。この過剰量は上記の脱色効果に必要であり組成物全重量に対して1-30重量多好ましくは7

はたとえばエタノール、プロパノール、又はイソプロパノールの如き低級脂肪族アルコール、プロピレングリコール、メチルグリコール、エチレングリコール及びブチレングリコール、ジエチレングリコール、ジプロピレングリコール、ヘキシレングリコール又はジエチレングリコール-モノエチルエーテルの如きグリコールであることができる。

これらの溶媒又はそれらの混合物は一般に2-20重量多好ましくは3-10重量多の濃度(稀釈剤)で使用する。

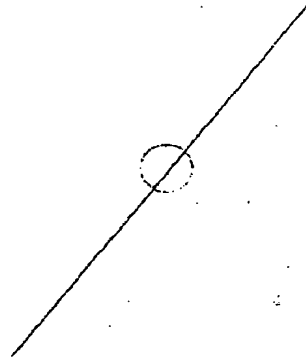
脂肪族アミドのうちとくにオレイン酸又はラウリン酸ジエタノールアミド、コブラのモノ-又はジエタノールアミド、ステアリン酸モノエタノールアミドをあげることができる。

これらのアミドは一般に0.5-10重量多好ましくは1-5重量多の濃度(稀釈剤)で用いる。

天然又は合成の脂肪族アルコールのうちとくに、オレイルアルコール、ラウリルアルコール、オクタデシルアルコール、ヘキシルデシルアルコール、イソステ

アリルアルコール、ミリスルアルコール、セチルアルコール、ステアシルアルコール、ヒドロキシステアシルアルコールをあげることができる。

これらのアルコールはノール重量多好ましくはノール重量多の濃度（希釈前）で用いる。



異アルキル硫酸塩のうちとくに、ラウリル硫酸ナトリウム、ラウリル硫酸アンモニウム又はトリエタノールアミン、セチルステアシル硫酸ナトリウム、セチルステアシル硫酸トリエタノールアミン、ラウリル硫酸モノエタノールアミン、たとえば酸化エチレン2,2モルでオキシエチレン化したラウリルエーテル硫酸ナトリウム、酸化エチレンがたとえば2,2モルのオキシエチレン・ラウリルエーテル硫酸モノエタノールアミンをあげることができる。これらの硫酸塩は一般にノール重量多好ましくはノール重量多の濃度（希釈前）で用いる。

用いる酸化剤は使用前の組成物の貯蔵中に酸化性成分の早期酸化を避けるため十分な量で存在したたとえば重亜硫酸ナトリウム又はカリウム、チオグリコール酸、ヒドロキノンなどである。

本発明の担体は希釈前には清澄な液の形で或いはクリーム形で存在している。

本発明の好ましい実施形式によると担体は液状をしている。この液状はたとえばオレイン酸又は

特開第154-40340(B)  
オキシエチレン化又はポリグリセロール化した天然の又は合成の脂肪族アルコール及びオキシエチレン化したアルキルフェノールのうちとくに、酸化エチレン10-30モルを含むポリオキシエチレン・オレイルアルコール、酸化エチレン12モルのオキシエチレン・ラウリル・アルコール、酸化エチレン6-10モルのオキシエチレン・セチルアルコール、酸化エチレン10モルのオキシエチレンセチルステアシルアルコール、酸化エチレン30モルのオレオセチルアルコール、酸化エチレン10-15又は30モルのステアシルアルコール、グリセロール4モルのポリグリセロール・オレイルアルコール、酸化エチレン5-10モルのポリオキシエチレン $C_{12}-C_{18}$ 、合成脂肪族アルコール、酸化エチレン6-10モルのオキシエチレン・ノニルフェノールをあげることができる。

これらの脂肪族アルコール又はアルキルフェノールは一般にノール重量多好ましくはノール重量多の濃度（希釈前）で用いる。

オキシエチレン化した又はしてないアルカリ金

インスタリン酸などの液状脂肪酸ノール又は教程を用いて得られ、場合によつては得られる混合物が液状のまゝであるような比率で他の脂肪酸と混合して得られる。アルカリ化はとくにアンモニア及びノール又はモノー又はジエタノールアミンを用いて行ない、アルカリ化剤は上述のとおりノール重量多の過剰量である。本発明の希釈液状毛染組成物の好ましい実施形式では、アルカリ化剤はアンモニアとモノー又はジエタノールアミンとの混合物でありモノー又はジエタノールアミンは脂肪酸に対して化学量論量でありアンモニアは染色効果を得るのに十分な量であり好ましくは組成物の重量に対してノール重量多のアンモニア量とする。

もちろんこの好ましい実施形式による組成物では、場合によつては存在する通常の添加物は液状組成物の調製に前した添加物である。

この好ましい実施形式によるとベンジルアルコールはノール重量多の濃度で存在しており、強制的に上述の希釈の少なくとも1種を併用しその濃度

は2-20重量好ましくは5-15重量である。

好ましいアミドとしてはオレイン酸又はラウリン酸ジエタノールアミド、椰子油酸(コブラ)のモノ-又はジ-エタノールアミドをあげることができる。

好ましい脂肪族アルコールとしてはオレイルアルコール、ラウリルアルコール、オクタデシルアルコール、ヘキシルデシルアルコール、ヘキシルデシルアルコール、イソステアリルアルコールをあげることができる。

本発明者が見出した所によると驚くべきことにはこの担体が清澄な液体の外見でありながら重量比1-2、好ましくは1の過酸化水素で希釈した後予期されるようなゲルを造らナクリームの外見と濃度との混合物となるものである。

従つて本発明の液体担体はゲル化性液体の扱い易さ(酸化剤との混合の容易さ)を呈し一旦混合が行なわれるとクリームの利点すなわち適用の容易さと毛髪への良好な附着性を示す。

そのうえ染色の品質はクリーム状担体を用いて

得られる被染の品質とゲル状担体を用いて得られる透明さと光沢との品質とを合せた優れたものである。

本発明の毛染組成物のpHは5-11、好ましくは5-10.5で変動できる。

本発明の毛染組成物は酸化剤を添加した後は通常の製剤で用いられる。

酸化塩基染料の濃度は0.001-10重量好ましくは0.03-5重量で変動でき、発色剤の濃度は0.001-5重量好ましくは0.015-2重量で変動できる。

毛染組成物/重量部と酸化剤/重量部とを混合できる。

適用時間は3-6分好ましくは1-3分で変化し得る。

本発明はまた上記に規定した希釈用組成物と過剰の酸化剤溶液との混合物から得られる毛染組成物にも関する。

酸化剤溶液はとくに過酸化水素溶液である。

本発明はまた毛髪にこの種の染色組成物を所望

の染色を得るのに十分な量で十分な時間適用することを特徴とする毛染法にも関する。

下記の実施例は本発明を説明するものであつて本発明をこれらの実施例に限定するものではない。

#### 実施例1

本発明により下記成分を混合して液状の染色担体を製造する:

*E、O、9モルのポリオキシエタレン	
ノニルフェノール	3g
オレイルアルコール	9g
オレイン酸ジエタノールアミド	9g
*E、O、30モルの水添脂肪族	
(sulf hydrogène)アミド	2.5g
オレイン酸	1.5g
重合体A	3g
7.5重量エタノール	9g
ベンジルアルコール	1.1g
ユ1-Bc アンモニウム水	1.4g
モノエタノールアミン	4.3g
リアミノフェノール塩基	0.2g

重酸トリジアミノアニソール	0.1g
レゾルシン	0.3g
m-アミノフェノール塩基	0.1g
p-トルイレンジアミン	3g
Trilon (トリロン) Bの名称で市販の	
エタレンジアミンテトラ酢酸	0.2g
重硫酸ナトリウム(d=1.32)液	1.2g
ヒドロキノン	0.15g

水を加えて全量を100gとする。

\*E、Oは酸化エタレンを示す。

鉢の中でこの組成物30gと過酸化水素(20倍容積)30gとを混合する。ゲル化したしかも濃くて使いよいクリームが得られ、毛髪に良好に附着する。

これを髪を洗つて毛髪に適用する。30-40分間放置してからすすぐ。

髪は梳き易く手触りが絹のようである。

セプトを行ない乾かす。

毛髪は光沢があり髪があり容積がふつくらとしてより手触りが絹のようで梳き易い。

濃い栗色の色調が得られる。

前記の重合体Aは式(I)の化合物において



$R_1 = R_2 = R_3 = R_4 = CH_3$   $X = BF$  に相当する。

#### 実施例2

本発明により下記成分を混合して液状の毛染剤体を製造する:

活性物質40%のラウリル硫酸

トリエタノールアミン 4g

HENKEL社からEUTANOL Gの名称で

市販の2-オクタノール 11g

オレイン酸ジエタノールアミド 8g

HENKEL社からMERGITAL OC30の

名称で市販のE.O.30モルのオレオ-

セチルアルコール 3g

オレイン酸 11g

重合体B 2g

ベンジルアルコール 12g

2,6-ジエタノール 10g

2,2'-Béアンモニア水 19ml

HENKEL社からMERGITAL OC30の名称で

市販のE.O.30モルのオレオセチルアルコール 4g

オレイン酸 17g

重合体C 3.5g

ベンジルアルコール 8g

2,6-ジエタノール 10g

2,2'-Béアンモニア水 9ml

モノエタノールアミン 7g

p-アミノフェノール塩基 0.70g

硫酸m-ジアミノアゾール 0.15g

レゾルシン 0.15g

m-アミノフェノール塩基 0.15g

ニトロ-p-アミノレングアミン 0.015g

p-トルイレンジアミン 0.30g

Trilon Bの名称で市販のエチレン

ジアミンテトラ酢酸 0.2g

重亜硫酸ナトリウム(d=1.32)液 1.2g

水を加えて 100g

実施例1と同様に操作し同様の結果が得られる

が明るい黄白色の金髪の色調が得られる。

特開54-49340(10)

p-アミノフェノール塩基 0.30g

レゾルシン 0.65g

p-トルイレンジアミン 0.15g

Trilon Bの名称で市販のエチレン

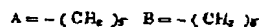
ジアミンテトラ酢酸 0.2g

重亜硫酸ナトリウム(d=1.32)液 1.2g

水を加えて 100g

実施例1と同様に操作する。結果は実施例1と同様であるが明るい黄白色の金髪の色調が得られる。

前記重合体Bは式(I)の化合物において



$R_1 = R_2 = R_3 = R_4 = CH_3$   $X = Cl$  に相当する。

#### 実施例3

本発明により下記成分を混合して液状の毛染剤体を製造する:

活性物質40%のラウリル硫酸

トリエタノールアミン 4.5g

オレイルアルコール 8g

オレイン酸ジエタノールアミド 10g

前記重合体Cは式(I)の化合物において



$R_1 = R_2 = R_3 = R_4 = CH_3$   $X = BF$  に相当する。

#### 実施例4

本発明により下記成分を混合して液状の毛染剤体を製造する:

活性物質40%のラウリル硫酸

トリエタノールアミン 3.5g

HENKEL社からEUTANOL Gの名称で市販の

2-オクタノール 7g

HENKEL社からCOMPERLAN KDの名称で

市販の椰子油酸ジエタノールアミド 8g

HENKEL社からMERGITAL OC30の名称

で市販のE.O.30モルのオレオセチルアルコール3g

オレイン酸 19g

重合体D 4g

ベンジルアルコール 10.5g

2,6-ジエタノール 9.5g

2,2'-Béアンモニア水 19.5ml

p-アミノフェノール塩基 0.22g

硫酸 m-ジアミノアニソール	0.044g
レゾルシン	0.12g
m-アミノフェノール塩基	0.075g
ニトロ-p-フェニレンジアミン	0.030g
p-トルイレンジアミン	0.16g
Trilon B の名称で市販のエタレン	
ジブシントラ酢酸	0.2g
重亜硫酸ナトリウム (d=1.32) 液	1.2g
水を加えて	100g

実施例ノと同様に操作し、同様の結果が得られるが明るく銅色がかつた金髪の色調が得られる。

前記重合体 D は式 (I) の化合物において



#### 実施例 5

本発明により下記成分を混合して液状の毛染剤体を製造する:

活性物質 40% のラクリル硫酸	
トリエタノールアミン	3g
HENKEL 社から EUTANOL G の名称で	

前記重合体 E は式 (I) の化合物において



#### 実施例 6

本発明により下記成分を混合して液状の毛染剤体を製造する:

HENKEL 社から EUTANOL G の名称で市販の	
2-オクタルドデカノール	1.2g
オレイン酸ジエタノールアミド	2g
HENKEL 社から MERGITAL OC 50 の名称で	
市販の E.O. 50 モルのオレオセチルアルコール	2g
オレイン酸	20g
重合体 F	1.5g
ベンジルアルコール	1.5g
76% エタノール	1.5g
2,2'-Bc アンモニア水	17.5ml
p-アミノフェノール塩基	0.08g
硫酸 m-ジアミノアニソール	0.04g
レゾルシン	0.245g
m-アミノフェノール塩基	0.07g

特開昭54-49340(11)

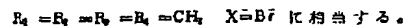
市販の 2-オクタルドデカノール	8g
オレイン酸ジエタノールアミド	6g
E.O. 50 モルの水添脂肪酸アミド	3.3g
オレイン酸	18g
重合体 B	3g
ベンジルアルコール	9g
76% エタノール	70g
2,2'-Bc アンモニア水	10ml
モノエタノールアミン	6g
p-アミノフェノール塩基	0.060g
硫酸 m-ジアミノアニソール	0.02g
レゾルシン	0.25g
m-アミノフェノール塩基	0.08g
p-トルイレンジアミン	0.60g
Trilon B の名称で市販のエタレン	
ジブシントラ酢酸	0.2g
重亜硫酸ナトリウム (d=1.32) 液	1.2g
水を加えて	100g

実施例ノと同様に操作し同様の結果を得るが金髪の色調のものが得られる。

ニトロ-p-フェニレンジアミン	0.003g
p-トルイレンジアミン	0.3g
Trilon B の名称で市販のエタレン	
ジブシントラ酢酸	0.2g
重亜硫酸ナトリウム (d=1.32) 液	1.2g
水を加えて	100g

実施例ノと同様に操作し同様の結果を得るが灰色がかつた金髪の色調のものが得られる。

前記重合体 F は式 (I) の化合物において



#### 実施例 7

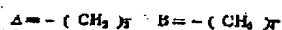
本発明により下記成分を混合して液状の毛染剤体を製造する:

活性物質 40% のラクリル硫酸	
トリエタノールアミン	3g
HENKEL 社から EUTANOL G の名称で市販	
の 2-オクタルドデカノール	10g
オレイン酸ジエタノールアミド	10g
オレイン酸	19g

重合体 G	2.5 g
ベンジルアルコール	1.0 g
γ-ブチロラクトン	1.0 g
2,2'-ビス(4-アミノエタノール)	1.25 ml
モノエタノールアミン	7 g
p-アミノフェノール塩基	0.09 g
レゾルシン	0.09 g
m-アミノフェノール塩基	0.04 g
p-トリレンジアミン	0.08 g
Trilon B の名称で市販のエチレンジアミンテトラ酢酸	0.2 g
重亜硫酸ナトリウム (4=1.32) 液	1.2 g
水を加えて	100 g

実施例ノと同様に操作し、同様の結果を得るが極めて明かるい金銀の色调のものが得られる。

前記重合体 G は式 (I) の化合物において



#### 実施例 7

本発明により下記成分を混合して液状の毛染剤

1-(2-ヒドロキシ・エタノールオキシ)・2,4-ジアミノ・ベンゼンジクロロヒドリド	0.03 g
1-メトキシ-3-ニトロ-4-β-ヒドロキシエタノールアミン・ベンゼン	0.07 g
1-β-ヒドロキシエタノールオキシ-3-ニトロ-4-アミノ・ベンゼン	0.06 g
ヒドロキノン	0.1 g
Trilon B の名称で市販のエチレンジアミンテトラ酢酸	0.2 g
重亜硫酸ナトリウム (4=1.32) 液	1 ml
水を加えて	100 g

実施例ノと同様に操作し同様の結果を得るが明かるい金銀の色调のものが得られる。

#### 実施例 7

本発明により下記成分を混合して液状毛染剤を製造する:

活性物質 40 分のラクリル硫酸	
トリエタノールアミン	4.5 g
オレイルアルコール	8 g
オレイン酸ジエタノールアミド	1.0 g

体を製造する。

活性物質 40 分のラクリル硫酸

トリエタノールアミン 4 g

HENKEL 社から EUTANOL G の名称で

市販の 2-オクタノールデカノール 1.1 g

オレイン酸ジエタノールアミド 8 g

HENKEL 社から MERGITAL OC 30 の名称

で市販の E.O. 30 モルのオレオセチルアルコール 3 g

オレイン酸 3.1 g

重合体 H 2 g

ベンジルアルコール 1.2 g

γ-ブチロラクトン 8 g

2,2'-ビス(4-アミノエタノール) 1.7 ml

1-アミノ-(2-メトキシ・エタノール)・

4-アミノ・ベンゼンジクロロヒドリド 0.03 g

p-アミノフェノール塩基 0.23 g

レゾルシン 0.07 g

m-アミノフェノール塩基 0.04 g

N-(2-ヒドロキシエタノール)-3-アミノ

-2-メチル・フェノール 0.13 g

HENKEL 社から MERGITAL OC 30 の名称で

市販の E.O. 30 モルのオレオセチルアルコール 4 g

オレイン酸 1.7 g

重合体 C 3.3 g

ベンジルアルコール 8 g

γ-ブチロラクトン 1.0 g

2,2'-ビス(4-アミノエタノール) 7 ml

モノエタノールアミン 7 g

1-アミノ-(2-メトキシ・エタノール)

4-アミノ・ベンゼンジクロロヒドリド 0.13 g

p-アミノフェノール塩基 0.4 g

レゾルシン 0.03 g

m-アミノフェノール塩基 0.04 g

(2,4-ジアミノ) フェノキシエタノール

ジクロロヒドリド 0.03 g

1-メトキシ-3-ニトロ-4-β-ヒドロキシ

エタノールアミン・ベンゼン 0.33 g

(3-ニトロ-4-アミノ)・フェノキシ

エタノール 0.1 g

ヒドロキノン 0.1 g

特開昭54-49340(13)

Trilon B の名称で市販のエチレン・  
ジアミンテトラ酢酸 0.2 g  
重炭酸ナトリウム (d=1.32) 板 1 ml  
1-フェニル-3-メチル-3-  
ピラゾロン 0.2 g  
水を加えて 100 g  
実施例1と同様に操作し同様の結果を得るが黄  
金色の金髪の色調のものが得られる。  
実施例10  
本発明により下記の成分を混合して液状の毛染  
剤を製造する:  
HENKEL 社から EUTANOL G の名称で  
市販のγ-オクタノールデカノール 1.2 g  
オレイン酸ジエタノールアミド 9 g  
HENKEL 社から MERGITOL OC 30 の名称で  
市販の E.O. 30 モルのオレオセチルアルコール 2 g  
オレイン酸 20 g  
重合体 F 1.5 g  
ベンジルアルコール 1.1 g  
フェニルエタノール 1.1 g

実施例1と同様に操作し、同様の結果を得るが  
灰色がかつた濃い金髪の色調のものが得られる。

#### 実施例11

本発明により下記成分を混合して液状の毛染  
剤を製造する:

活性物質 40% のラウリル硫酸 3 g  
トリエタノールアミン 1.1 g  
HENKEL 社から EUTANOL G の名  
称で市販のγ-オクタノールデカ  
ノール 1.2 g  
オレイン酸ジエタノールアミド 9 g  
オレイン酸 20 g  
重合体 H 2.3 g  
ベンジルアルコール 1.1 g  
プロピレングリコール 8 g  
フェニルエタノール 1.1 g  
2,2'-Bis(アンモニア水 1.2 g  
モノエタノールアミン 4 g  
p-アミノフェノール塩基 0.3 g  
レゾルシン 0.3 g

2,2'-Bis(アンモニア水 1.2 g  
硫酸 N,N'-ビス(2-ヒドロキシエチル)  
パラフェニレンジアミン 1 g  
p-アミノフェノール塩基 0.4 g  
レゾルシン 0.1 g  
m-アミノフェノール塩基 0.1 g  
アルファナフトール 0.4 g  
ヒドロキノン 0.1 g  
エチレンジアミンテトラ酢酸 0.2 g  
重炭酸ナトリウム (d=1.32) 1 ml  
水を加えて 100 g

m-アミノフェノール塩基 0.6 g  
p-トルイレンジアミン 0.1 g  
Trilon B の名称で市販のエチ  
レンジアミンテトラ酢酸  
重炭酸ナトリウム (d=1.32) 板 1.3 g  
水を加えて 100 g  
実施例1と同様に操作し同様の結果を得るが  
明るい黄金色の金髪の色調のものが得られる。  
前記重合体 H は式(II)の化合物において A =  
-CH<sub>2</sub>-, B = -(CH<sub>2</sub>)<sub>4</sub>-, R<sub>1</sub> = R<sub>2</sub> = R<sub>3</sub> = R<sub>4</sub> =  
CH<sub>3</sub>, X<sup>-</sup> = Br<sup>-</sup> に相当する。

#### 実施例12

本発明により下記成分を混合して液状の毛染  
剤を製造する:

活性物質 40% のラウリル硫酸 3 g  
トリエタノールアミン 1.1 g  
HENKEL 社から EUTANOL G の名  
称で市販のγ-オクタノールデカ  
ノール 1.2 g  
HENKEL 社から COMPERLAN KU の 9 g

名称で市販の陽子脂酸ジエチ

ノールアミド

Bril 74の名称で市販の 2.5g

E.O.10モルのステアール

アルコール

オレイン酸 2.2g

重合体I 3.2g

ベンジルアルコール 1.0g

96%エタノール 6g

エチルグリコール 0.5g

2.2% Bcアンモニア水 1.5ml

p-アミノフェノール塩基 0.70g

硫酸m-ジアミノアニソール 0.15g

レゾルシン 0.15g

m-アミノフェノール塩基 0.15g

ニトロ-p-フェニレンジアミン 0.015g

p-トルイレンジアミン 0.30g

Trilon Bの名称で市販のエタ

レンジアミンテトラ酸 0.2g

重炭酸ナトリウム(d=1.32)液 1.2g

ブチルアルコール 4g

硫酸N,N-ビス(ユーヒドロ

キシエチル)パラフェニレン

ジアミン

p-アミノフェノール塩基 0.4g

レゾルシン 0.15g

m-アミノフェノール塩基 0.1g

アルファナフトール 0.4g

ヒドロキノ 0.1g

Trilon Bの名称で市販のエタ

レンジアミンテトラ酸 0.2g

重炭酸ナトリウム(d=1.32)液 1ml

ノ-フェニル3-メチル-3-

ピラゾロン 0.2g

水を加えて 100g

実施例1と同様に操作し同様の結果を得るが  
灰色がかった濃い金茶の色調のものが得られる。

前記重合体Iは式(1)の化合物においてA=-(OH)<sub>2</sub>-  
U-(CH<sub>2</sub>)<sub>2</sub>- B=OH, -CHOH-OH, -  
R<sub>1</sub>=R<sub>2</sub>=R<sub>3</sub>=R<sub>4</sub>=OH, X<sup>-</sup>=Br<sup>-</sup>に相当する。

特開54-49340(14)

100g

実施例1と同様に操作し同様の結果を得るが明  
るい黄金色がかった栗色の色調のものが得られた。

前記重合体Iは式(1)の化合物においてA=  
-(CH<sub>2</sub>)<sub>2</sub>- B=-(CH<sub>2</sub>)<sub>2</sub>- R<sub>1</sub>=R<sub>2</sub>=R<sub>3</sub>=R<sub>4</sub>=  
OH, X<sup>-</sup>=Br<sup>-</sup>に相当する。

実施例2

本発明により下記成分を混合して液状の毛染組  
成体を製造する:

E.O.10モルのノニルフェノール 4g

オレイルアルコール 8.5g

オレイン酸ジエタノールアミド 8.5g

E.O.10モルの 水添脂肪酸 2g

アミド

オレイン酸 18.5g

重合体J 1.5g

96%エタノール 6g

ベンジルアルコール 1g

2.2% Bcアンモニア水 1.2ml

モノエタノールアミン 7g

実施例3

本発明により下記成分を混合してクリーム状の  
毛染組成体を製造する:

セチルステアールアルコール 17g

HENKEL社からEUTANOL Gの名

称で市販の3オクタノール

アルコール

E.O.10モルのステアール 2.5g

アルコール

活性物質30%のラウリル硫酸 1.2g

アンモニウム

重合体L 4g

ベンジルアルコール 2g

2.2% Bcアンモニア水 1.1ml

レゾルシン 0.420g

m-アミノフェノール 0.150g

重炭酸m-ジアミノアニソール 0.041g

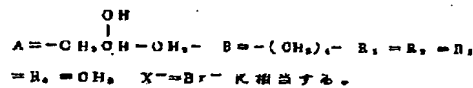
p-ニトロフェニレンジアミン 0.081g

p-トルイレンジアミン 0.004g

Trilon Bの名称で市販のエタ



レンジアインテトラ酸  
重炭酸ナトリウム (d=1.2) 液 1.200g  
水を加えて 100g  
鉢の中でこの組成物30gと過酸化水素(20倍容量)水溶液4.5gとを混合する。  
滑らかな便よいクリームが得られ毛髪に良く附着する。  
このクリームを鏡を用いて毛髪に適用する。  
30分間放置してからすすぐ。  
髪は梳き易く手触りが絹のようである。  
セプトを行ない乾かす。髪は光沢があり根が  
ありふつくらとして手触りが絹のようで梳き易い。  
100%黒白の毛髪では金髪が得られる。  
前記混合物は式(1)の化合物において



#### 実施例15

下記成分からなる液状の染色組成物を製造する:

下記の成分を混合して液状の染色組成物を製造する:

E.O.9モルのポリオキシエタレ ンノニルフェニル	3g
オレイルアルコール	9g
オレイン酸ジエタノールアミド	9g
E.O.90モルのポリオキシエタ レン水基脂肪族アミド	1.5g
オレイン酸	1.5g
重合体 P <sub>1</sub>	3g
4.5% エタノール	9g
ベンジルアルコール	11g
2.2% ビエアンモニウム水	1.4g
モノエタノールアミン	4.5g
p-アミノフェノール	0.2g
硫酸m-ジアニソール	0.1g
レゾルシン	0.5g
m-アミノフェノール	0.2g
ポトリルイレンジアミン	2g
Trilon B の名称で市販のエタ	0.2g

特開2005-49340(15)

オレイン酸	4.5g
モノエタノールアミン	0.75g
セナルスチアルアルコール	1.6g
オレイルアルコール	5g
MERUITAL UC 30	2.5g
重合体 L	4g
ベンジルアルコール	2.2g
2.2% ビエアンモニウム水	1.4g
レゾルシン	0.45g
m-アミノフェノール	0.15g
硫酸m-ジアニソール	0.045g
p-ニトロフェニレンジアミン	0.045g
ポトリルイレンジアミン	0.0045g
Trilon B	1.000g
重炭酸ナトリウム (d=1.2) 液	1.200g
水を加えて	100g

適量を過酸化水素(20倍)水溶液と混合  
するとクリームが得られ前記実施例に記載の方法  
で適用する。金髪の色調が得られる。

#### 実施例16

レンジアインテトラ酸

重炭酸ナトリウム (d=1.52)	1.2g
水を加えて	100g
鉢の中でこの組成物30gを過酸化水素(20倍容量)水溶液4.5gと混合する。便よいゲル化した滑らかなクリームが得られ、毛髪によく附着する。鏡を使つてこれを毛髪に適用する。30-40分間放置してからすすぐ。	
毛髪は梳き易く、手触りが絹のようである。セプトを行ない乾かす。髪は光沢があり、根がよりふつくらとしており手触りが絹のようで梳き易い。	

良い染色の色調が得られる。

前記重合体 P<sub>1</sub> に相当する(調製例1参照)

#### 実施例17

下記成分を混合して液状の染色組成物を製造する:

活性物質 4.0% のラクリル酸	4.5g
トリエタノールアミン	
オレイルアルコール	5g
オレイン酸ジエタノールアミド	10g

HENKEL 社から MEROITAL OC 50 の  
名前で市販の E.O. 30 モルのオ  
レオセタルアルコール

オレイン酸

重合体 P<sub>1</sub>

ベンジルアルコール

7.4% エタノール

2.2% Be アニモニア水

モノエタノールアミン

p-アミノフェノール

阻害剤 m-ジアニソニアニール

レゾルシン

m-アミノフェノール

ニトロ-p-フェニレン

ジアミン

p-トリアルキレンジアミン

Trilon B の名前で市販のエ

チレンジアミンナトリウム

高濃度硫酸ナトリウム (d=1.32) 溶  
液を加えて

重合体 P<sub>1</sub>

ベンジルアルコール

7.4% エタノール

2.2% Be アニモニア水

(1-(β-ヒドロキシエチル)

ニ-アミノアクリンジクロロ

ヒドリド

p-アミノフェノール

レゾルシン

m-アミノフェノール

N-(β-ヒドロキシエチル)

ニ-アミノ-ニ-アミナルアエ  
ノール

(2, 4-ジアミノ) アニソキ

シ-ジクロロヒドリド

ヒドロキノン

Trilon B の名前で市販のエチ

レンジアミンナトリウム

高濃度硫酸ナトリウム (d=1.32) 溶  
液を加えて

特許第54-49340 (16)

実施例 1.4 と同様に操作し、同様の結果を得る  
が、明るい黄金色がかった茶色の色調のものが得ら  
れた。

前記重合体 P<sub>1</sub> を当量の量の重合体 P<sub>2</sub>、又は  
P<sub>1</sub>、又は重合体 P<sub>1</sub>、及び P<sub>2</sub> の混合物に替えて同  
等の結果が得られた。

重合体 P<sub>1</sub>、P<sub>2</sub>、及び P<sub>3</sub> については後述する  
(調製例 1.2 及び 1.3 参照)。

実施例 1.5

下記成分を混合して液状染色剤体を製造する:

粘性物質 7.0% のラウリル硫酸

トリエタノールアミン

HENKEL 社から EUTANOL O の名

前で市販の 2-オクタノール  
ノール

オレイン酸ジエタノールアミド

HENKEL 社から MEROITAL OC 50

の名前で市販の E.O. 30 モルの

オレオセタルアルコール

オレイン酸

実施例 1.4 と同様に操作し同様の結果を得るが  
明るい黄金色の色調のものが得られる。

前記重合体 P<sub>1</sub> を当量の量の重合体 P<sub>2</sub>、又は P<sub>1</sub>  
に替えて同様の結果が得られた。

重合体 P<sub>2</sub> については後述する (調製例 1.3 参照)

実施例 1.6

下記成分を混合して液状染色剤体を製造する:

E.O. 30 モルのノニルアノール

オレインアルコール

オレイン酸ジエタノールアミド

E.O. 30 モルのポリオキシエタ

レン水酸脂肪酸アミド

オレイン酸

重合体 P<sub>1</sub>

7.4% エタノール

ベンジルアルコール

2.2% Be アニモニア水

モノエタノールアミン

ブチルグリコール

硫酸 N, N-ビス(β-ヒドロキ

システム) P-フェニレンジア ミン	
ド-アミノフェノール	0.4g
レゾルシン	0.15g
m-アミノフェノール	0.1g
ブブアフトール	0.4g
ヒドロキノ	0.1g
Trilon B の名称で市販のエチ	0.24g
レンジアミンナトリウム	
重亜硫酸ナトリウム (d=1.32) 液	1ml
ノ-フェニル-3-メチル-2-	0.2g
ヒラゾン	
水を加えて	100g

実施例 1 と同様に操作し同様の結果を得るが  
灰色がかつた強い金髪の色調のものが得られた。  
前記重合体 P<sub>1</sub> を適量の量の重合体 P<sub>2</sub>、又は P<sub>3</sub>  
に替えて同様の結果が得られた。

#### 実施例 20

下記の方法の染色担体製造する:

オレイン酸 5g

モノエタノールアミン	0.93g
セチルステアリルアルコール	1.3g
オレイルアルコール	3g
MABQUOL DTPA	3g
E.O. 30 モルのオレオセチル	3g
アルコール	
重合体 P <sub>1</sub>	3g
エタノール・ジエタノール水	1.3ml
ベンジルアルコール	2g
レゾルシン	0.2g
m-アミノフェノール	0.25g
N-(p-ヒドロキシエチル)	0.02g
ノ-アミノ-3-メチルフェノール	
J. 4-ジアミノ-フェニル	0.01g
エタノール・ジクロロヒドリド	
重亜硫酸ナトリウム (d=1.32) 液	1ml
水を加えて	100g

この組成物 50g を過酸化水素 (20 倍容) 水  
溶液 50g と混合する。

かくしてクリームが得られ、これを鏡を用いて

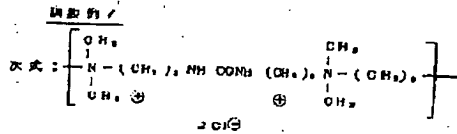
毛髪に適用する。

30 分間放置してからすすぐ。

100% 漂白の毛髪では明るい茶色の色調が得ら  
れる。

前記重合体 P<sub>1</sub> を適量の量の重合体 P<sub>2</sub>、又は重  
合体 P<sub>3</sub> と P<sub>1</sub> との混合物に替えて同様の結果が  
得られた。

以下に前記組成物の実施例に用いられるカタオ  
ン系重合体 P<sub>1</sub>、P<sub>2</sub> の調製例を示す。



の反応単位を有する重合体 P<sub>1</sub> の調製:

強力攪拌をしながら 1 時間の間 N, N'-ビス  
(3-ジメチルアミノ-プロピル)-尿素 4.6g  
(2モル)、1, 4-ジクロロ-2-ヘキサン 3.1g  
(0.2モル) 及び水 50g を加熱反応する。内部

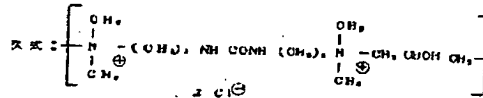
させながら得られた粘稠溶液に水 100g  
を加える。調製 1, 4-ジクロロ-2-ヘキサンの痕跡  
を除くために 100g の水を留置し、次に溶液の  
濃度を希釈された重合体 30% に調整する。

30% 溶液での分析 計算値: 0.6-2.2%

実測値: 0.6-2.6%

外見: 粘稠溶液、濃度: 無色

#### 調製例 2



の反応単位を有する重合体 P<sub>2</sub> の調製

N, N'-ビス(3-ジメチルアミノ-プロピル)

尿素及び、1, 4-ジクロロ-2-ヘキサン

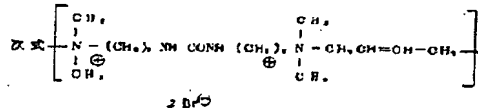
から調製例 1 と同じ操作法で操作する。

30% 溶液での分析 計算値: 0.6-2.6%

実測値: 0.6-2.7%

外見: 粘稠溶液 濃度: 無色

調製例 1



の反復単位を有する重合体 P<sub>1</sub> の調製:

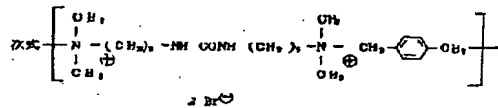
この化合物は重合体 P<sub>1</sub> と同じ操作法により N, N'-ビス(3-ジメチルアミノ-プロピル)尿素と 1, 1'-ジプロモ-1, 2-エタン-3, 3'-ジブタンとから得られる。

10% 溶液での分析 計算値: Br<sup>-</sup> 18.5%

実測値: Br<sup>-</sup> 18.2%

外見: 結晶性粉末、無色、無臭

調製例 2



の反復単位を有する重合体 P<sub>2</sub> の調製:

N, N'-ビス(3-ジメチルアミノ-プロピル)尿素と 1, 1'-ジプロモ-1, 2-エタン-3, 3'-ジブタンと水 100 g と混合する。約 50~60°C に加熱し、β-β'-ジクロロエタンエーテル 25.6 g (0.2 モル) を加え 1.5 時間の間加熱撹拌する。次に水 100 ml を加える。活性物質 50% の溶液が得られるまで水を除去する。

10% 溶液での分析 計算値: Cl<sup>-</sup> 25.5%

実測値: Cl<sup>-</sup> 25.3%

実施例 1

下記の液状染色組成物を調製する:

イソステアリン酸	4 g
モノエタノールアミン	0.93 g
セチルステアリアルアルコール	2.0 g
オレイルアルコール	4 g
MERGITAL DC 30	4 g
重合体 K	5 g
ベンジルアルコール	2.5 g
2, 2'-ビ(4-アミノ-2-エタノール)	1.1 g
1-アミノ-2-エタノール	1.6 g

特許第 54-43340 (18)

の反復単位を有する重合体 P<sub>1</sub> の調製

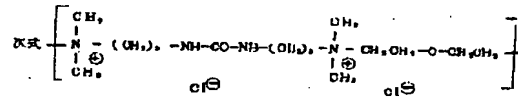
100 ml の三角フラスコ中で強い撹拌を行ないながら 3 時間の間 N, N'-ビス(3-ジメチルアミノ-プロピル)尿素と 1, 1'-ジプロモ-1, 2-エタン-3, 3'-ジブタンと水 100 g と混合する。約 50~60°C に加熱し、β-β'-ジクロロエタンエーテル 25.6 g (0.2 モル) を加え 1.5 時間の間加熱撹拌する。次に水 100 ml を加える。活性物質 50% の溶液が得られるまで水を除去する。

10% 溶液での分析 計算値: Br<sup>-</sup> 18.5%

実測値: Br<sup>-</sup> 18.2%

外見: 結晶性粉末、無色、無臭

調製例 3



エタノール) 4-アミノ-ベンゼン

ン・ジクロロヒドリン

p-アミノフェノール 0.3 g

レゾルシン 0.2 g

m-アミノフェノール 0.3 g

N-(2-ヒドロキシ-エタノール) 0.02 g

1-(2-ヒドロキシ-エタノール) 0.02 g

シ)-2, 4-ジアミノ-ベンゼン

ジクロロヒドリン

TFilon B 0.20 g

チオグリコール酸 0.20 g

水を加えて 100 g

適宜の量の過酸化水素と混合してクリームが得られ、これを上記のように毛髪に適用して明るい染色の点調が得られる。

前記重合体 X は式(1)の化合物において A =

-(CH<sub>2</sub>)<sub>3</sub>-, B = -(CH<sub>2</sub>)<sub>3</sub>-O-(CH<sub>2</sub>)<sub>3</sub>-

R<sub>1</sub> = R<sub>2</sub> = R<sub>3</sub> = R<sub>4</sub> = OH, X = Cl<sup>-</sup> である。

実施例 2.2

下記成分の液状染色組成物を製造する:

活性物質 #0 のラウリル炭	2.5 g
取トリエタノールアミン	
BUTANOL U	4 g
オレイン酸ジエタノール	1.1 g
アミド	
MERGITAL OO 80	4 g
オレイン酸	1.7 g
ブチルグリコール	1.5 g
9.6% エタノール	2.5 g
ベンジルアルコール	1.2 g
重合体 M	4 g
2.2° Be アンモニア水	1.4 ml
ドートルイレンジアミン	1.3 g
p-アミノフェノール塩基	0.21 g
1-(3-ヒドロキシ-エ テルオキシ)-2,4-ビス アミノベンゼンジクロロヒ ドリド	0.13 g

ルイジアナノール)	7 g
KOMPERLAN KD	
(無子油酸ジエタノールアミド)	7 g
MERGITAL OO 80	
(E.O. 3.0 モルのオレオセチル	
アルコール)	2 g
オレイン酸	1.7 g
モノエタノールアミン	7 g
エタノール	3.5 g
ブチルグリコール	2.5 g
ベンジルアルコール	1.2 g
重合体 N	3 g
2.2° Be アンモニア水	1.0 ml
ドートルイレンジアミン	0.71 g
レゾルシン	0.4 g
2-メチル-3-メトキシ-	
パラフェニレンジアミン	0.03 g
4-ヒドロキシ-ベンズ	
モルホリン	0.02 g
p-アミノフェノール	0.15 g

特開2004-49340 (19)

レゾルシン	0.5 g
m-アミノフェノール	0.2 g
N-(3-ヒドロキシエチル)	
-3-アミノ-3-メチル-	
フェノール	0.01 g
Trilon B	0.25 g
重亜硫酸ナトリウム (d=1.32) 液	1.2 g
ヒドロキノン	0.13 g
1-フェニル-3-メチル-	0.17 g
-3-ピラゾロン	
水を加えて	100 g

前項の物と同様に操作する。  
得られる染色の色調は式 (I) (ただし A = -(CH<sub>2</sub>)<sub>2</sub>、  
X = Br) の反復単位からなる。

B = -(CH<sub>2</sub>)<sub>2</sub>、R<sub>1</sub> = R<sub>2</sub> = R<sub>3</sub> = CH<sub>3</sub>、R<sub>4</sub> = O、R<sub>5</sub> =  
X = Br] の反復単位からなる。

実施例 2.3

下記の液状染色組成物を製造する:

E.O. 3.0 モルのポリオキシエタ	2.5 g
レノノールフェノール	
BUTANOL U (3.0 g)	

1-(3-ヒドロキシ-エ テルオキシ)-2,4-ビス アミノベンゼンジクロロヒ ドリド	0.07 g
Trilon B (エチレンジア ミンと硫酸)	0.25 g
ヒドロキノン	0.13 g
m-アミノフェノール	0.07 g
重亜硫酸ナトリウム (d=1.32) 液	1.1 g
1-フェニル-3-メチル-	
-ピラゾロン	0.15 g
水を加えて	100 g

前項の物と同様に操作する。

得られる染色の色調は式 (I) (ただし A = -(CH<sub>2</sub>)<sub>2</sub>、  
X = Br) の反復単位からなる。

B = -(CH<sub>2</sub>)<sub>2</sub>、R<sub>1</sub> = R<sub>2</sub> = R<sub>3</sub> = CH<sub>3</sub>、R<sub>4</sub> =  
O、R<sub>5</sub> = X = Br] の反復単位からなる。

実施例 2.4

下記の液状染色組成物を製造する:

活性物質 #0 のラウリル炭	2.5 g
取トリエタノールアミン	

オレイルアルコール	1.5g
オレイン酸ジエタノールアミド	1.5g
E.O.30モルの水添脂肪酸アミド	1.2g
オレイン酸	1.5g
モノエタノールアミン	1.5g
エタノール	1.5g
ベンジルアルコール	1.5g
重合体O	1.5g
2,2'-Bis(アミノエチル)水	1.1g
p-アミノフェノール	0.17g
炭酸m-ジアミノアノール	0.1g
レゾルシン	0.4g
m-アミノフェノール	0.21g
p-トリレンジアミン	1.5g
Trilon B (エチレンジアミン	
テトラ酢酸)	0.3g
重炭酸ナトリウム (d=1.32)液	1.3g
ヒドロキノン	0.15g
ノーフエニル-3-メチル	
3-ビラゾロン	0.2g

p-トリレンジアミン	0.5g
p-アミノフェノール	0.14g
3-メチル-3-メトキシベンゾ	
フェニル-ジアミン	0.025g
炭酸m-ジアミノアノール	0.05g
レゾルシン	0.36g
m-アミノフェノール	0.075g
4-ヒドロキシベンゾ酸ナトリウム	0.024g
ヒドロキノン	0.15g
Trilon B	
(エチレンジアミン・テトラ酢酸)	0.25g
重炭酸ナトリウム (d=1.32)液	1.2g
ノーフエニル-3-メチル-3-	
ビラゾロン	0.15g
水を加えて	100g

前項の例と同様に操作する。

明るい黄色の色調が得られる。

前記重合体Qは式(II)〔ただしA=-(CH<sub>2</sub>)<sub>2</sub>-、  
B=-(CH<sub>2</sub>)<sub>2</sub>-、R<sub>1</sub>=R<sub>2</sub>=CH<sub>3</sub>、R<sub>3</sub>=R<sub>4</sub>=CH<sub>3</sub>、  
X=Br〕の反復単位からなる。

水を加えて

100g

前項の例と同様に操作する。

深い黄色の色調が得られる。

前記重合体Uは式(III)〔ただしA=-(CH<sub>2</sub>)<sub>2</sub>-、

B=-(CH<sub>2</sub>)<sub>2</sub>-、R<sub>1</sub>=R<sub>2</sub>=CH<sub>3</sub>、R<sub>3</sub>=R<sub>4</sub>=

CH<sub>3</sub>、X=Br〕の反復単位からなる。

#### 実施例11

下記の染料染色組成物を製造する:

E.O.30モルのポリオキシエチレン-	
ノニルフェノール	3g
BUTANOL G	10g
(3-オクタノールデカノール)	7.5g
オレイン酸ジエタノールアミド	1.5g
Brij 78 (E.O.30モルの	
ステアリアルアルコール)	3g
オレイン酸	1.5g
エタノール	1.5g
ベンジルアルコール	7g
重合体Q	1.5g
2,2'-Bis(アミノエチル)水	1.1g

#### 実施例14

下記の染料染色組成物を製造する:

活性物質40%のラウリル硫酸	
トリエタノールアミン	4g
オレイルアルコール	1.0g
KOMPERLAN KD	
(帽子油酸ジエタノールアミド)	7g
MERGITAL OG 30	
(E.O.30モルのオレオセチル	
アルコール)	2.5g
オレイン酸	1.5g
モノエタノールアミン	1.5g
エタノール	1.5g
ベンジルアルコール	1.5g
重合体R	1.5g
2,2'-Bis(アミノエチル)水	1.1g
p-アミノフェノール	0.17g
炭酸m-ジアミノアノール	0.07g
レゾルシン	0.4g
m-アミノフェノール	0.15g

p-トリレンジアミン 1.3g  
Trilon B (エチレンジアミン  
アトラ酢酸) 0.23g  
重亜硫酸ナトリウム (d=1.32) 液 1g  
ヒドロキノン 0.1g  
1-アミノ-2-メチル-3-  
ピラゾロン 0.16g  
水を加えて 100g  
前項の例と同様に操作する。  
淡い黄色の色調が得られる。  
前記重合体Bは式(I) (ただしA=-(CH<sub>2</sub>)<sub>4</sub>-,  
B=-(CH<sub>2</sub>)<sub>6</sub>-, R<sub>1</sub>=R<sub>2</sub>=C<sub>6</sub>H<sub>5</sub>-, R<sub>3</sub>=R<sub>4</sub>=OH-,  
X=Br) の反復単位からなる。

#### 実施例27

下記の液体染色組成物を製造する:

EUTANOL G  
(3-オクタノール)  
オレイン酸ジエタノールアミド 2.5g  
MERGITAL 00 30  
(E.O.30モルのオレオマテル

前項の例と同様に操作する。  
明るい果色の色調が得られる。

#### 実施例28

下記の液体染色組成物を製造する:

活性物質40%のラウリル硫酸  
トリエタノールアミン 2g  
EUTANOL G 1.6g  
オレイン酸ジエタノールアミン 6g  
MERGITAL 00 30 3g  
オレイン酸 1.3g  
モノエタノールアミン 3g  
ベンジルアルコール 4g  
エタノール 1.0g  
重合体B 2.6g  
2,2'-ビフェニルモニア水 1.0g  
p-アミノフェノール 0.18g  
レゾルシン 0.7g  
m-アミノフェノール 0.6g  
Trilon B 0.2g  
ヒドロキノン 0.03g

特開54-43340(21)

アルコール) 2g  
オレイン酸 1.0g  
ベンジルアルコール 1.03g  
96%エタノール 1.1g  
重合体P 1.3g  
2,2'-ビフェニルモニア水 1.75g  
p-トリレンジアミン 0.78g  
p-アミノフェノール塩基 0.17g  
2-メチル-3-メトキシ-  
ピラゾロン 0.03g  
炭酸m-ジアミノフェノール 0.07g  
レゾルシン 0.4g  
m-アミノフェノール 0.08g  
4-ヒドロキシベンゾ  
ホルマリン 0.022g  
ヒドロキノン 0.16g  
Trilon B (エチレンジアミン  
アトラ酢酸) 0.3g  
重亜硫酸ナトリウム (d=1.32) 液 1g  
水を加えて 100g

p-トリレン・ジアミン 0.13g  
重亜硫酸ナトリウム (d=1.32) 液 1.2g  
1-アミノ-2-メチル-3-  
ピラゾロン 0.13g  
水を加えて 100g

前項の例と同様に操作する。明るい果色の色  
調が得られる。

前記重合体Bは式(II) (ただしA=-(CH<sub>2</sub>)<sub>4</sub>-,  
B=-(CH<sub>2</sub>)<sub>6</sub>-, R<sub>1</sub>=R<sub>2</sub>=C<sub>6</sub>H<sub>5</sub>-, R<sub>3</sub>=R<sub>4</sub>=  
CH<sub>2</sub>CH<sub>2</sub>OH、X=Br) の反復単位からなる。

代理人 朝 内 忠 夫

代理人 八 木 田 茂

代理人 浜 野 孝 雄

代理人 森 田 哲 二

22

昭 56 8.18 発行

特許法第17条の2の規定による補正の掲載  
昭和53年特許願第108687号(特開昭  
54-49340号 昭和54年4月18日  
発行公開特許公報 54-494号掲載)につ  
いては特許法第17条の2の規定による補正があっ  
たので下記のとおり掲載する。

Int. Cl.	特許 記録	序内整理番号
A61k 7/13		7432 4C

### 手続補正書(自発)

昭和56年4月27日

特許庁審査官

殿

#### 1. 事件の表示

昭和53年特許願第108687号

#### 2. 発明の名称

塩素用組成物

#### 3. 補正をする者

出願人の関係

特許出願人

住所

フランス国・パリ市・8・リュ・ロイアル、14

名称

ロリアル

#### 4. 代理人

〒105 住所 東京都港区西新橋1丁目1番15号

物産ビル別館 電話(591)0261

(6645) 氏名 八木川 茂

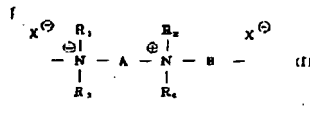


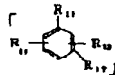
#### 5. 補正の対象

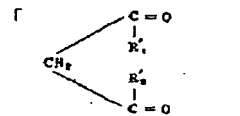
明細書の発明の詳細な説明の欄

#### 6. 補正の内容

- (1) 明細書第7頁第14行の「フェノール、」を「フェノール又は」と補正する。
- (2) 同書第11頁第1行の「式(1)」を次の通り補正する。



- (3) 同書第11頁第5行の「同じである。」を「同じである」と補正する。
- (4) 同書第14頁第6行の「塩素イオン」を「塩素イオン、」と補正する。
- (5) 同書第20頁第9行の一般式を  と補正する。
- (6) 同書第22頁第11行の式を次の通り補正する。



- (7) 同書第27頁第1行の「ミリシム」を「ミリスチル」と補正する。
- (8) 同書第29頁第6行及び第8行の「2.2メル」をそれぞれ「2.2メル」と補正する。
- (9) 同書第31頁第17行の「一旦」を「一旦」と補正する。
- (10) 同書第56頁第17行の「適な量」を「適量」と補正する。
- (11) 同書第81頁第5行の「ラムリル」を「ラクリル」と補正する。
- (12) 同書第61頁第20行の「ヒドロキシ」を「ヒドロキノン」と補正する。